

水田転換園でのイチジク栽培のポイント

圃場の選び方

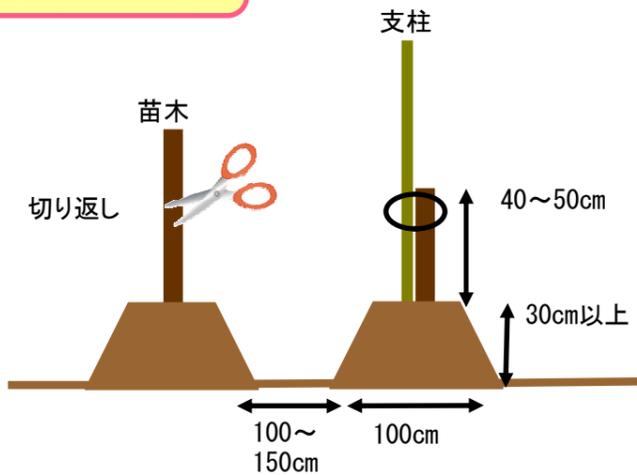
- 排水・かん水対策が可能な圃場** イチジクの根は酸素要求量が多く、滞水すると根腐れ等の湿害が発生します。一方、葉が大きく水分要求量が多いので乾燥に弱い品目です。暗渠排水の実施・かん水施設の整備を行いましょう。かん水は梅雨明け1週間後頃から始めます。
- 冷気が溜まらない圃場** 原産地が亜熱帯地域なので、耐寒性は落葉果樹の中で最も低いです。凍霜害の発生は春先に多く、発芽期前の耐寒性は-1~-3℃程度です。特に「樹井ドーフィン」は寒さに弱い品種なので厳寒期-8℃以下になる圃場は避けましょう。幼木は特に寒さに弱いので注意が必要です。
- 風通りの少ない圃場** 水田に栽培すると、浅根となり強風や台風で倒木しやすくなります。また、葉が大きいため葉が揺れると果実を傷つけます。圃場には2m程度の高さの防風網等を設置しましょう。
- イチジク跡地ではない圃場** イチジク自体が出す毒素が土壌に残るため連作はできません。水田転換園では浅根となりやすいため、経済樹齢は10~15年が目安です。



作業暦

月旬	3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11~12月	1~2月
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下					
イチジクの生育	始根めの活動			萌芽期			新梢伸長			初果期 実肥大						成熟期						落葉期				
作業	剪定			敷わら			芽誘引き			摘芯						収穫						土基防 壤肥寒 改良				
	←→			←→			←→			←→			←→			←→			←→			←→				

植え付け（一文字整）



開園の準備にあたっては線虫を持ち込まない為に、管理機やトラクターのロータリーなどは事前に洗浄します。

開園前には苦土石灰を10aあたり200kg程度全面に施用して整地します。

畦は土壌の排水条件によりますが、高さ30cm以上にして根が滞水にあたらないようにします。

畦間100~150cm、株間6m(10aあたり66~83本)にします。

定植は3月に行い、植え付けの穴の深さは30cm程度、植え付けの深さは10cm程度にします。小高く浅く植え付けます。

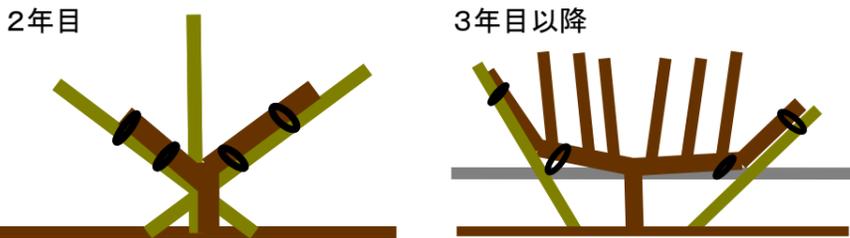
水田転作園や排水の悪い園では基肥は控え、追肥を数回に分けて行います。

苗木は40~50cmで切り返し、丈夫な支柱に幹を結束します。

新梢が15~20cm伸びた5月下旬~6月上旬に発生角度が広くて、左右の勢力、発生方向のよい新梢2本を主枝として残し、他は全てかき取ります。

主枝は畦方向に対して20~30度の角度をもって支柱を立て誘引します。主枝の先端は下垂しないようにします。

整枝・剪定



新梢が伸び出したら、主枝の片側40~60cm間隔に左右交互になるように、主枝の横側から出ている新梢を残し、その他の枝は全てかき取ります。

先端の枝は、主枝延長枝として充実のよいところで切り、斜めに立てて誘引します。

結果枝誘引

植え付け2年後からは毎年同じ位置で結果枝を誘引します。

結果枝位置に竹の棒や支柱を立てて、そこに誘引テープや誘引ひもで結果枝を止めていく方法(写真左)や、1.2~1.5mの高さに針金2本を張り、ここから下げた誘引ひもで結果枝を巻きながらつり下げの方法(写真右)があります。



管理 結果枝の生育が強すぎると、果実の肥大や着色が悪く熟期も遅れてしまうので、15~20段を目安に展葉する前に摘芯します。

水田転換園は浅根になりやすいので、秋に計画的な30cm程度の深耕や10aあたり20t程度の客土を実施して根の伸長を促しましょう。

樹勢が強い場合は副梢の発生が多くなりやすく、光条件が悪くなりますので、結果枝の間隔を広めにしたり、反射マルチの設置を行い、着色向上を図りましょう。

施肥

窒素の過多や遅効きは結果枝が徒長して、着色不良や裂果の原因となるので、樹齢や土壌の肥沃度により窒素の量を加減しましょう。

幼木には6月は追肥せず、8月は加里肥料3kg/10aのみ追肥、生育が悪い場合は窒素を1~2kg/10aを施用します。

土壌改良剤として、11月中旬頃に苦土石灰100kg/10aを施用します。

施用時期		窒素	りん酸	加里	苦土石灰	堆肥
土壌改良	11月中旬	—	—	—	100	—
基肥	11月下旬	10	9	7	—	1,000~1,500
追肥	6月下旬	3	2	4	—	—
	8月中旬	2	2	3	—	—
計		15	13	14	100	1,000~1,500

成木の果施肥基準 (kg/10a)